

# 目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	経済学研究科
大項目	0 理念・目的 (研究科)
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員 (教職員および学生) に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

## II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告 (2013.4.30現在の進捗状況報告)

### 《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 研究科の理念・目的についてはHP等で社会に公開されているが、大学院生に対する周知徹底をさらに行う必要がある。	→研究科オリエンテーションなどを通じて、経済学研究科の教育目標等の周知徹底。	B	A	A	A	/
2. 研究科の目標等の定期的な検証は大学院執行部会や他の委員会で絶えず行われているが、今後もこれを継続していく。	→指標なし。	A	A	A	A	/

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

### 《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	2011年度すでに『経済学研究科・履修心得』に、追加的に「アドミッション・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」、「ディプロマ・ポリシー」の内容を記載し、かつそれらを研究科ホームページにも記載して周知徹底を図ることによって、体制が確立されている。よって2009年度に設定した目標が達成できており、2012年度にもそれを遺漏なく踏襲できている。
目標2	2011年度すでに「ディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム・ポリシー」の検討が大学院執行部と研究科委員会でなされ、検証する機会をもつことにより、目標は達成されている。2012年度は、さらなる改善のために大学院FD委員会による組織的な検証の体制を整えつつある。
備考	